

# 伝染性気管支炎

伝染性気管支炎は**伝染性気管支炎ウイルス（IBV）**の感染により引き起こされる急性で感染性の高い鶏の呼吸器病です。

## ➤ 症 状

IBV に感染しても多くは不顕性ですが、様々なストレスによって臨床症状を示すようになります。呼吸器症状が一般的ですが、時には腎臓や生殖器にも障害を与えることがあり、育成率や飼料効率の低下、産卵率の低下や卵質の劣化等を引き起こし経済的損失となります。

## ➤ 予 防

対策のひとつに**ワクチン接種**が挙げられます。最近では農場内で流行している IBV の遺伝子解析により、ワクチンを適正に選択することも報告されています。しかしながら、各メーカーから発売されている多種多様なワクチンをやみくもに接種することは、農場内で新しい変異株を生み出す要因にもなりうるものが危惧されています。また、野外の IBV はワクチン株より抗原性が多様なので、ワクチンだけで伝染性気管支炎を予防するには限界があります。

最も重要な対策は、他の疾病と同様に**適切かつ良好な飼育管理を徹底すること**です。本病の発生により経済性の低下している農場でも飼育管理を改善することにより被害を低減することができます。



ワクチンに頼りすぎた対策ではなく、  
適正な飼養衛生管理こそが  
本病だけでなく他の病原体も予防できる近道です。